

誤謬は一方青年の役割をばじら振きオスター強りくは彼れとして頭角を顕はすことが前衛の任務であるかの如くは誤解し運動全般の歩調を監視して突进的に前進せんとしな傾向とである前者は青年の能くを展覧しつて進歩的であり、後者は運動の部分と全体との関係性に対する理解である。

四、青年独自の運動と組合運動全般との関係性は、青年の運動は組合運動に於ける如くである失業軍の増大は直接に従業労働者の労働条件の低下を意味するが故に失業反対闘争は失業者と従業労働者との共同闘争であるが如くは未だ青年労働者の二重の搾取は或る労働者の労働条件低下又は失業を意味するを以て青年労働者「独自の」闘争は直ちに或る労働者の闘争であるとはならない。運動の、不可分性の正しき認識は自然青年の要請である。青年労働者の積極的奮起を促す。

二 青年部の組織

- 一、本部青年部は総聯合年次大会に於て選挙と此の中間選挙の両方による青年部長及び該中央委員会に於て選定される部員若干名を以て組織する。
- 二、地方聯合会及び加組組合の青年部組織は本部組織に準ずる。

三 青年部當面の事業

- 一、青年部の事業はその任務の遂行に依するものであるは無論でも互いが、当面尤の如き事項が考慮されるべきであらう。
- 二、教育部との協力に依つて総聯合下の青年のみならず、進んでは未組織青年大衆の階級的教育に努めること、当面の急務は組織労働青年の間に観られる概念的誤謬並に運動戦術に關する誤謬の排除である。それ故に青年には青年に実践的闘争を経験せしむべきである。プロレタリアの教育運動は既に理論的教育のみならず実践的な経験によつて初めて眞実の闘争の雄略を獲得し得るからである。又盛に研究会を開催することは一つの方法である。かゝる研究会に於ける理論は大いなる一般的教育價値に富む著のものがあるが故に公式の機関を通じて広く発表されるべきである。

- 三、組織部と協力して未組織労働青年の組織化に力を注ぐこと、ストライキに於て街頭に於て、労働学校に於て別る所に青年部は組合青年を動員して未組織青年の組織に努めなければならない。

- 四、青年独自の闘争―二重搾取の撤廃社会的及び政治的自由の獲得に關する戦術